

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、  
生活のいろいろな場面で  
「健康寿命」をのばす運動を  
実践しています。

# よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2008(平成20)年4月15日 第419号

(財)東京都予防医学協会  
(財)予防医学事業中央会東京都支部

発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402

東京都新宿区市谷砂土原町1の2

保健会館 電話 03(3269)1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

## 新たな 予防医学技術の向上をめざして

第42回予防医学技術研究会議



### ● 今月の主な紙面 ●

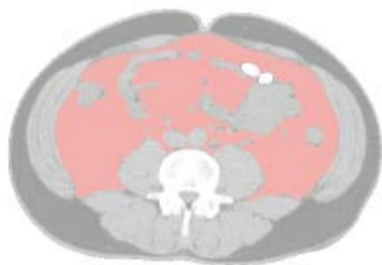
(1面) ● 新たな予防医学技術の向上をめざして  
第42回予防医学技術研究会議  
● いよいよスタート 特定健診・特定保健指導

(2~3面(見開き))

- 新連載 科学的根拠に基づいた日本人に推奨できるがん予防法 第1回
- 連載 子宮がん検診をめぐる 第12回
- 新連載 健康づくり・健康増進を支援するページ  
保健指導シリーズ: 医師のコラム・保健師のコラム・  
管理栄養士のコラム・健康運動指導士のコラム

(4面) ● 質の高い学校検診に向けて

- 新刊紹介/『100歳まで元気人生! “病予防”百科』
- 平成19年度理事会・評議員会を開く— 本会
- 東京都予防医学協会年報2008年版ができました



内臓脂肪

「CTによる内臓脂肪測定」の測定結果。  
40代男性。BMIは24と正常範囲内だが、内臓脂肪は173.6cm<sup>2</sup>、「隠れ肥満」だとわかった(内臓脂肪100cm<sup>2</sup>以上で内臓脂肪型肥満とされる)。

メタボの早期発見を目的とする特定健診には、腹囲やLDLコレステロールの測定が加わった。また、健診の結果で、メタボやその

おり、死亡原因に占める生活習慣病(がんを除く)の割合も、全体の3分の1に達している。こうした状況に歯止めをかけるために、この4月から新しい健診制度がスタートした。40歳から74歳の被保険者・被扶養者に対する、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群・メタボ)に着目した生活習慣病予防のための健康診査(特定健診)および保健指導(特定保健指導)である。

### 特定健診・特定保健指導

#### いよいよスタート

日本腎臓学会理事長の菱田明彦教授(写真)による特別講演「CKD(慢性腎臓病)対策の現状と展望」(座長 石黒満静岡県予防医学協会専務理事、北川照男本会理事長)では、腎臓の構造と役割、蛋白尿出現の意味と検尿の重要性、CKD診療における蛋白尿と腎機能の評価、CKDの予防・治療、生活習慣との関連などについて最新の知見を基に解説が行われ、CKD対策の現状や課題が紹介された。



菱田明彦教授(写真)による特別講演「CKD(慢性腎臓病)対策の現状と展望」(座長 石黒満静岡県予防医学協会専務理事、北川照男本会理事長)では、腎臓の構造と役割、蛋白尿出現の意味と検尿の重要性、CKD診療における蛋白尿と腎機能の評価、CKDの予防・治療、生活習慣との関連などについて最新の知見を基に解説が行われ、CKD対策の現状や課題が紹介された。

生活習慣の変化などにより、わが国では生活習慣病の有病者や予備群が増加している。こうした状況に歯止めをかけるために、この4月から新しい健診制度がスタートした。40歳から74歳の被保険者・被扶養者に対する、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群・メタボ)に着目した生活習慣病予防のための健康診査(特定健診)および保健指導(特定保健指導)である。

この他、研究会議では、健康診断、検査技術、内臓脂肪症候群、代謝異常検査、生理機能検査、小児保健、健診技術、超音波検査、がん検診といった9部門、53題の研究発表やミニシンポジウム「学校心臓検診」が行われた。また、第30回予防医学事業中央会技術賞(児玉賞)の授賞式も行われ、本会の「海外長期滞在者の帰国時健診における寄生虫検査成績について(第5報)」、新潟県保健衛生センターの「細胞採取法の変更に伴う子宮頸がん検診の成績の検討」の2題が表彰された。

CKDは、蛋白尿陽性なアチニン値を測定して腎機能を知ることが欠かせないと強調した。その上で、CKDが発見されたら、腎機能の悪化や心血管疾患の発症を抑制するため適切な治療に結びつけることが重要であると述べ、学会が発行した「CKD診療ガイド」の概要を紹介した。

この他、研究会議では、健康診断、検査技術、内臓脂肪症候群、代謝異常検査、生理機能検査、小児保健、健診技術、超音波検査、がん検診といった9部門、53題の研究発表やミニシンポジウム「学校心臓検診」が行われた。また、第30回予防医学事業中央会技術賞(児玉賞)の授賞式も行われ、本会の「海外長期滞在者の帰国時健診における寄生虫検査成績について(第5報)」、新潟県保健衛生センターの「細胞採取法の変更に伴う子宮頸がん検診の成績の検討」の2題が表彰された。

## 「CKD(慢性腎臓病)対策」 「特定保健指導」で講演やシンポジウム

この4月から生活習慣病予防に重点をおいた特定健診・特定保健指導が始まった。これを目前に控えた2月29日、3月1日の2日間、第42回予防医学技術研究会議が静岡市で開催され、「CKD(慢性腎臓病)対策の現状と展望」と題した特別講演「特定保健指導」と題したシンポジウムなど生活習慣病対策と関連のあるテーマが取り上げられた。予防医学に関する検査・健診技術の水準の向上、研究成果の発表と検討などを目的に開かれた研究会議には、予防医学事業中央会傘下の全国37都府県支部の健診・検査担当者や関係者ら約150人が参加した。

とが重要であると述べ、学会が発行した「CKD診療ガイド」の概要を紹介した。さらに菱田教授は、メタボリックシンドローム(メタボ)の危険因子が増加するとCKDの頻度も増加する、肥

交換が行われた。この他、研究会議では、健康診断、検査技術、内臓脂肪症候群、代謝異常検査、生理機能検査、小児保健、健診技術、超音波検査、がん検診といった9部門、53題の研究発表やミニシンポジウム「学校心臓検診」が行われた。また、第30回予防医学事業中央会技術賞(児玉賞)の授賞式も行われ、本会の「海外長期滞在者の帰国時健診における寄生虫検査成績について(第5報)」、新潟県保健衛生センターの「細胞採取法の変更に伴う子宮頸がん検診の成績の検討」の2題が表彰された。

### 個人情報取扱について

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。そのうえで今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

## 健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は(予約制)  
電話 東京(03)-3269-1141  
健康管理コンサルタントセンター

事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2  
(財)東京都予防医学協会

### ◆◆ コンサルテーションのごあんない ◆◆

5月 7日	岡 惺治 (健康管理コンサルタント)
14日	三輪祐一 (東京都予防医学協会総合健診部長)
21日	岡 惺治
28日	第219回ヘルスケア研修会につき休み

6月 4日	岡 惺治
11日	三輪祐一
18日	岡 惺治
25日	三輪祐一



# 腎臓・糖尿病検診、心臓検診の打ち合わせ会を開催 本会



打ち合わせ会では、腎臓・糖尿病検診、心臓検診それぞれについて、2008年度の実施予定数と地区が報告され、地区別の検診実施日程など具体的な打ち合わせと確認が行われた他、今後の検診のあり方をめぐって、さまざまな意見交換が行われた。

このうち、検診の実施予定件数については、腎臓・糖尿病検診、心臓検診ともに今年度は昨年度を上回る件数が見込まれている。これは、検診の技術やシステム、姿勢といった本会の「検診の質」が評価された成果と考えられる。

今回それぞれの打ち合わせ会に参加した専門医は次の各氏である(順不同、敬称略)。

▽腎臓・糖尿病検診  
村上睦美(日本医科大学名誉教授、五十嵐徹(同大学、

伊藤文之(東京慈恵会医科大学教授 宿谷明紀(同大学、高橋昌里(日本大学医学部准教授、浦上達彦(同大学講師)、大友義之(順天堂大学医学部准教授、田中絵里子(東京医科歯科大学、大森多恵(都立墨東病院、亀井宏一(国立成育医療センター)、下田益弘(武蔵野赤十字病院副部長)、関根孝司(東京大学医学部准教授、関根裕司(倉

伊藤文之(東京慈恵会医科大学教授 宿谷明紀(同大学、高橋昌里(日本大学医学部准教授、浦上達彦(同大学講師)、大友義之(順天堂大学医学部准教授、田中絵里子(東京医科歯科大学、大森多恵(都立墨東病院、亀井宏一(国立成育医療センター)、下田益弘(武蔵野赤十字病院副部長)、関根孝司(東京大学医学部准教授、関根裕司(倉

東京都予防医学協会の平成19年度第3回理事会および第2回評議員会が3月27日、東京・市谷のアルカディア市ヶ谷で開かれた。

理事会、評議員会に先立ち、あいさつを行った北川照男本会理事長は、19年度は予定した事業を達成できたばかりでなく、18年度よりも検査や健診の数が増え、業績が良好であったことを報告し、関係者の理解と協力に謝意を表し、次のように述べた。

「19年度はがん対策基本法が施行され、がん対策の一層の推進が図られた。本会ではこうした国の施策に対応するための情報が多く取り上げられ、予防と対応の両面から250人の専門家による解説がなされている。今年度から始まった特定健診、特定保健指導にも対応している。

章立てに工夫がこらされているのも本書の大きな特徴だろう。身体部位ごとの構成ではなく、「健康づくりの基礎」として、健康・長寿のための基礎知識老化の予防生活習慣病・メタボリックシンドロームの予防を、「健康づくりの実践編」として、食

運動と健康、心の健康と休養を、「困った時の対応編」として、性と健康、くすりや健康、おはあちゃんの知恵袋から試してみたい健康法までを、「暮らしの安全編」として、サプリメントや食、環境の安全性を取り上げている。

口絵には「日常に潜む「もしもの」事故への予防法と対処を掲載。ここでは交通事故、誤食・誤飲・窒息、熱中症、やけどなどの項目が並ぶ。次に、幼年期から高齢期まで6つのライフステージごとの遭遇しやすい病気や障害で分類された索引がある。また、身体部位別の気になる症状から、病気と予防法を検索することもできる。

活字が大きく、イラストや図表も豊富で、わかりやすい。

巻末には付録「予防と治療の費用」がついており、医療費の仕組みから検査・治療の値段、医療費節約のポイントまで、病気になった時に一番気になる費用面までカバーされている。

また、気のおもむくままページをめくると思いがけない情報もあり、読み物としても楽しめる。

(日本医療企画、A4判変型4762円+税)

新年度を迎え、全国の小・中・高等学校では一斉に児童生徒の健康診断が行われている。これに先立って、本会では毎年、検診を担当する小児の心臓病、腎臓・糖尿病の専門医に集まってもらい、それぞれの検診の打ち合わせ会を開いて学校検診の円滑な実施を図っている。今年も、腎臓・糖尿病検診の打ち合わせ会(写真上)を3月4日に、心臓検診の打ち合わせ会(写真下)を3月6日に開催した。打ち合わせ会には、本会の検診の指導と、検診で異常が見つかった子どもたちの診断や治療を担当している専門医、本会の担当スタッフらあわせて約60人が出席し、検診を行う上でのさまざまな問題を討議し、関係者間の共通理解と連携を深めた。

女子医科大学教授、幡谷浩史(清瀬小児病院院長、北川照男(日本大学医学部名誉教授)

▽心臓検診  
浅井利夫(東京女子医科大学教授、本間哲(同大学)、鮎澤衛(日本大学医学部講師)、金丸浩(同大学)、石井正浩(北里大学医学部教授、伊東三吾(都立尾花病院副院長)、秋元かつみ(順天堂大学医学部、佐地勉(東邦大学医学部教授)、鈴木淳子(東京通信病院長、関一郎(都立墨東病院部長、土井庄三郎(東京医科歯科大学講師)、保崎明(杏林大学医学部)、村上保夫(神原記念病院院長)、山岸敬幸(慶應義塾大学医学部講師)、弓倉整(弓倉

東京都予防医学協会の平成19年度第3回理事会および第2回評議員会が3月27日、東京・市谷のアルカディア市ヶ谷で開かれた。

理事会、評議員会に先立ち、あいさつを行った北川照男本会理事長は、19年度は予定した事業を達成できたばかりでなく、18年度よりも検査や健診の数が増え、業績が良好であったことを報告し、関係者の理解と協力に謝意を表し、次のように述べた。

「19年度はがん対策基本法が施行され、がん対策の一層の推進が図られた。本会ではこうした国の施策に対応するための情報が多く取り上げられ、予防と対応の両面から250人の専門家による解説がなされている。今年度から始まった特定健診、特定保健指導にも対応している。

章立てに工夫がこらされているのも本書の大きな特徴だろう。身体部位ごとの構成ではなく、「健康づくりの基礎」として、健康・長寿のための基礎知識老化の予防生活習慣病・メタボリックシンドロームの予防を、「健康づくりの実践編」として、食

運動と健康、心の健康と休養を、「困った時の対応編」として、性と健康、くすりや健康、おはあちゃんの知恵袋から試してみたい健康法までを、「暮らしの安全編」として、サプリメントや食、環境の安全性を取り上げている。

口絵には「日常に潜む「もしもの」事故への予防法と対処を掲載。ここでは交通事故、誤食・誤飲・窒息、熱中症、やけどなどの項目が並ぶ。次に、幼年期から高齢期まで6つのライフステージごとの遭遇しやすい病気や障害で分類された索引がある。また、身体部位別の気になる症状から、病気と予防法を検索することもできる。

活字が大きく、イラストや図表も豊富で、わかりやすい。

巻末には付録「予防と治療の費用」がついており、医療費の仕組みから検査・治療の値段、医療費節約のポイントまで、病気になった時に一番気になる費用面までカバーされている。

また、気のおもむくままページをめくると思いがけない情報もあり、読み物としても楽しめる。

(日本医療企画、A4判変型4762円+税)

# 質の高い学校検診に向けて

## 平成19年度理事会・評議員会を開く 本会

ため、かねてより人間ドック施設や婦人科検診施設を拡張し、マンモグラフィ搭載の検診車を導入するなど、がん検診の体制整備を行ってきた。

また一部の企業にご協力いただき、メタボリックシンドロームに重点をおいた健診・保健指導を試験的に実施して、本年4月から始まる特定健診・特定保健指導に対応できるように準備を進めてきた。

20年度には、公益法人制度の見直しも予定されており、今後も社会の変化に速やかに対応できるように情報の収集と分析を行い、対応を誤らぬように細心の注意を払いたい。

この後、理事会は北川理事長を議長に、評議員会は國井沙評議員を議長に選出し、20年度の事業計画と収支予算案、次期評議員候補推薦方法の審議を行い、いずれも満場一致で承認された。

## 東京都予防医学協会年報 2008年版 第37号 (平成18年度活動報告) ができました

●各分野の執筆者とテーマは下記のとおりです(敬称略)●

### 【Ⅲ 母子保健】

**妊婦甲状腺機能検査** 「妊婦甲状腺機能検査の実施成績」百瀬尚子(本会内分泌科)

**性感症検査** 「東京におけるクラミジア・トラコマチスおよび淋菌検査の実施成績」/「性感症における最近の動向」松田静治(性の健康医学財団理事長)

**新生児スクリーニング検査** 「新生児の先天性代謝異常症のスクリーニング成績」本会検査研究センター「先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)の新生児マス・スクリーニング実施成績」杉原茂孝(東京女子医科大学教授)「先天性副腎過形成症の新生児マス・スクリーニング成績」鹿島田健一(東京医科歯科大学)

【Ⅳ がん検診】

**胃がん検診** 「胃がん検診の実施成績」本会放射線部

**肺がん検診** 「肺がん検診の実施成績」高梨智子(本会画像診断科)

「東京から肺がんをなくす会」の検診 「東京から肺がんをなくす会の実施成績」大松広伸(国立がんセンター東病院院長)

**大腸がん検診** 「大腸がん検診(便潜血反応検査)の実施成績」本会検査研究センター

**子宮がん検診** 「子宮がん検診(グリーンルーム)の実施成績」伊藤良彌(本会婦人検診部)

**東京産婦人科医会との協力による子宮がん細胞診** 「子宮がん細胞診の実施成績」長谷川壽彦(本会検査研究センター)「子宮がん精密検診センターの実施成績」塚崎克己(慶應義塾大学医学部准教授)

**乳がん検診** 「乳がん検診の実施成績」高梨智子(本会画像診断科)

**東京産婦人科医会との協力による乳房検診** 「乳房2次検診センターの実施成績」野木裕子(東京慈恵会医科大学附属病院)

【Ⅴ 生活環境検査】

**生活環境検査** 「生活環境検査の実施成績」本会検査研究センター「細菌・ウイルス性食中毒の発生状況とその防止に関する最近の知見」諸角 聖(本会学術委員)

【Ⅵ 研究・健康教育活動】

学会、研究会での研究発表/健康教育活動/2006年度の本会の概要



この「年報」をご希望の方は、東京都予防医学協会広報室までお問い合わせください。(電話03-3269-1131)

## 100歳まで元気人生! 「病気予防」百科

総監修/渡邊 昌、和田 攻

### 新刊紹介



長寿大国日本で、今、人々の関心はいかに健康な状態での

生きるかに向けられている。本書はタイトルが示すように、病気になるための日常の暮らし方という観点からまとめられた、現代ならではの「家庭の医学」である。病気のものの説明もさることながら、病気になること、病気を防ぐための実践メニューなど健康的な生活を送るための実践編」として、食

運動と健康、心の健康と休養を、「困った時の対応編」として、性と健康、くすりや健康、おはあちゃんの知恵袋から試してみたい健康法までを、「暮らしの安全編」として、サプリメントや食、環境の安全性を取り上げている。

口絵には「日常に潜む「もしもの」事故への予防法と対処を掲載。ここでは交通事故、誤食・誤飲・窒息、熱中症、やけどなどの項目が並ぶ。次に、幼年期から高齢期まで6つのライフステージごとの遭遇しやすい病気や障害で分類された索引がある。また、身体部位別の気になる症状から、病気と予防法を検索することもできる。

活字が大きく、イラストや図表も豊富で、わかりやすい。

巻末には付録「予防と治療の費用」がついており、医療費の仕組みから検査・治療の値段、医療費節約のポイントまで、病気になった時に一番気になる費用面までカバーされている。

また、気のおもむくままページをめくると思いがけない情報もあり、読み物としても楽しめる。

(日本医療企画、A4判変型4762円+税)

### 【Ⅰ 学校保健】

**心臓病検診** 「心臓病検診の実施成績」浅井利夫(東京女子医科大学教授)

**腎臓病検診** 「腎臓病検診の実施成績」村上睦美(日本医科大学名誉教授)

**糖尿病検診** 「小児糖尿病検診の実施成績」浦上達彦(日本大学医学部講師)「小児期発症2型糖尿病は減少したか?—最近の動向から—」大和田操(女子栄養大学大学院教授)

**脊髄側彎症検診** 「脊髄側彎症検診の実施成績」大塚嘉則(国立病院機構千葉東病院名誉院長)

**小児生活習慣病予防健診** 「小児生活習慣病予防健診の実施成績」村田光範(東京女子医科大学名誉教授)

**貧血検査** 「貧血検査の実施成績」前田美穂(日本医科大学教授)

**寄生虫検査** 「寄生虫検査(学校保健分野)の実施成績」本会検査研究センター

【Ⅱ 地域・職域保健】

**定期健康診断・基本健康診査** 「定期健康診断の実施成績」須賀万智(聖マリアンナ医科大学講師)「住民健診の実施成績」本会成人保健部

**特殊健康診断** 「特殊健康診断の実施成績」三輪祐一(本会総合健診部)

**保健指導事業** 「保健指導の実施成績」本会健康増進部

**人間ドック** 「人間ドックの実施成績」三輪祐一(本会総合健診部)

**超音波検査** 「超音波検査の実施成績」本会検査研究センター

**クリニックの外來診療** 「クリニックの実施成績」小野良樹(本会保健会館クリニック)